

R 6 . 8 . 6

第 1 号

通巻162号

学院通信

発行
金光学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷 1486
TEL (0865) 42-3115
FAX (0865) 42-3114



聖蹟巡拝 (泉勝院)

神 人 の 道 「 を 生 き る け い こ 」

学院長

大代 信治



教祖様、歴代金光様のお徳に包まれ、学院生は本部広前の修行生として教主金光様のおひざ元において、創設百三十年の今年も、日々を大切に修行に取り組ませていただけてきたことはありがたいことです。
教祖様は「日に日に生きるが信心なり」と教えてくださっています。生活の起居一切を修行として取り組み、共に道の働きが現れる生き方を求めてきました。神様と出会い、信心の喜びを感じる日々でありたいと思っています。

一方、金光大神広前は「信心のけいこ場所」と言われ、私たちは事ごとにお引き寄せを頂いてきました。御取次を頂き、ご祈念をさせていただくお広前は、修行する私たちにとって特別な場所です。
ところで、信心のけいこに対して信心の本番とはどういうことでしょうか。「日に日に生きるが信心なり」と言われるように、生活の全般が信心の現れる場であり、本番と言えるでしょう。そうであれば、生活全般のためのけいこは極めて大切なものです。

そのように思い至って、早朝の教主金光様のお出ましをお迎えし、教主金光様の後ろで共にご祈念を頂き、お結界でお取次の支度を整えられお姿を拝していると、今まさに天地の今日一日が始まるという感慨を覚えるのです。また、一人ひとりの生活のためのけいこをするお広前で、すから、生活あるいは人生のもとであり、いのちのもととも言えます。ここはどう生きるかを導いてくださり、神の氏子の基づくところを確認する場だと思わされます。

日に日に生きることは、「神人の道」を生きることに他なりません。五代金光様がお示しくくださった「神人の道」が、一人ひとりの生活に現わされ、ご神願成就のお役に立てるよう導かれ、身につけていく場が各教会を含めたお広前です。それが「信心のけいこ場所」なのでしょう。学院における一年、もしくは一カ月の間も、生活のもとと同様に、この先の御用のもと、根っこをご霊地で、学院の場で整えられていくように感じています。

あらためて七月二十一日に神上がられました五代金光様の御取次に御礼申し、特に「神人の道」としてお示しになったみ旨を大切にしてお広前のけいこで培い、生活に現し奉り、ここから導きのままに修行成就、御用成就のおかげを蒙らせていただきたいと思えます。

学院修行について

学院次長 秦 浩治

令和六年度の本科生十五名が、五月十五日に入学をして早いもので三カ月が経とうとしています。

入学直後の修行輔導期間では、前年度の学院生がOBとなり「本部広前の修行生」としてのあり方が本科生に伝えられます。本年度は五名の方がOBの御用に当たっていただきましたが、そのOB達も、一年前には前年度のOBの指導を受け、「本部広前の修行生」として、一年間の修行に取り組んできました。本年度も、OBの方々がそれぞれに受け継いできたものを大切に、ここまですべてお育ていただいた「人を思う心」をもって、丁寧に指導してくださいました。

そして、六月十五日には特科生九名が入学し、一カ月間の学院修行を終え、七月十五日に無事卒業することができました。本科生、特科生それぞれが、「本部広前の修行生」として教主金光様の御取次を頂いての修行の中で、同期として入学したご縁を大切に、お道の御用に生きる者としての絆も深まったと感じます。

学院生が毎日唱える「学院生活の願い」の中に、「日常の起居一切を行じて」という文言があります。それは、



修行輔導期間 (参拝)

毎日の生活の全てに修行の心を現し、起こつてくる様々な事柄を通して、自分自身を見つめることだと思えます。それぞれが置かれていた環境も違う中、共同生活を送る上で、戸惑いや疑問、ストレスを感じることで、今まで自分では気づかなかつた自分の一面に悩まされたり、行き詰まりを感じたりすることもあつて思えます。

そうした時に是非思い出していたいただきたいのは、入学に際して、教主金光様から頂いた「学院生活の中で、ここまでに受けたおかげを思い返してみてください」とのおことばです。一人一人がこのおことばを胸に、ここでしか



求道の日 (「覚」筆写)

得られない大切な時間の中でこれまで受けたおかげを思い返しながら、常に神に心を開ける姿勢を持つて問題に取り組んでいただきたいと願っています。ここまでの三カ月の中で、日々教主金光様をはじめ保証教会長先生やご家族、そのほか道の諸先輩方の祈りを受けて、それぞれが日々の生活の中に、神様の働きを受け止めようとする取り組みが進められているように思われます。学院は暑さも寒さも厳しいところではあります。天地の働きの中でそれぞれにかけられた願いを受け止め、それぞれの修行が成就するよう、共に祈らせていただきたいと思えます。

一日の修行内容

(時間)	(修行内容)
5:20	起床
5:40	参拝出発
6:00	本部広前御祈念・洒掃
7:30	朝食
8:30	朝礼
9:00	午前の課業
11:50	洒掃
12:30	昼食
13:30	午後の課業
15:20	参拝出発
15:40	本部広前御祈念・洒掃
16:40	お退けお見送り・洒掃
18:00	夕食
19:00	夜御祈念 自修・入浴
21:00	閉門
22:00	消灯

人事異動

・書記岩崎結、十二月一日付で助手に任命。	・助手宮本保子、五月一日付で講師に任命。	・書記山本道登、五月七日付で主事に任命。	・教師西川道子、五月二十九日付で臨時御用奉仕に任命。
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------------

講義科目・担当者

教会・布教科目	教団科目	教祖・教義科目	信修科目
礼典(祭詞) 教会活動(各種活動)	結界取次 直信・先覚	教団史 教団活動	本教概説
田中照彦	金原光三 宮本保子 安部美雄 仁科明日児	三好光一 須寄元道 佐藤満昌	大代信治 佐藤光貴 秦浩治

信行輔導の歩み

■信行輔導期間

学院本科は、年齢もここまでの経歴も異なる人達が「お道の教師にお取立っていたきたい」との同じ願いの下に集い、約一年の学院修行を進める。そこで、入寮からの十日間を信行輔導期間と定め、前年度の卒業生であるOBの指導を受け、学院修行の基本を習得し、本部広前の修行生としてのあり方を培っていく。

覚えることも多く、慣れない黒衣での生活に戸惑っていた学院生も、OBの懇切丁寧な指導によって少しずつ理解を深めていき、それぞれに修行生活のよいスタートを切ることができた。御用に当たっていたいただいたOBの皆様



信行輔導期間 (洒掃指導)

様には改めて御礼を申し上げます。本年度のOBは以下の通り。(敬称略)

- 佐藤 武夫 (広島・芸備)
- 小林 順三 (岡山・御野)
- 金光 美千世 (岡山・本部)
- 長野 優大 (大阪・鶴橋)
- 池本 一徳 (福岡・不知火)

■聖蹟巡拝 (ご生家方面、木綿崎山方面)

聖蹟巡拝は、教祖様ゆかりの地を訪れ、教祖事蹟への理解を深めることを願いとして実施している。

六月二十日には、本科生・特科生合同で教祖様のご生家方面へ赴いた。往路では大谷の荒神社、早馬神社、西側の墓地(金光家遠祖歴世親族家族之奥城)などを巡り、ご生家まで歩いた。ご当主・香取航師から教祖様にまつわる話を伺い、教祖様直筆の神名書付、天地書附など貴重な品々を拝見させていただき、奥城にも参拝させていただいた。そして、復路では教祖様実父である十平様が幼少の教祖様を背負って参ったとされる泉勝院を参拝させていただいた。その後、占見村の氏神である大宮神社へも参拝し、拝殿にて昼食をいただいで帰院した。

また、六月十八日には特科生全員が、七月五日には本科生が四グループに分かれて、教祖奥城や立教聖場、歴代教主奥城をはじめ、小野邸跡や絵師迫墓など、木綿崎山周辺の聖蹟を巡った。学院生は大谷村、占見村の聖蹟を興味深く巡拝し、教祖様の時代に思いを馳

せていた。今秋には、西大寺観音院、吉備津神社、鞆津祇園宮等を訪問する予定である。



聖蹟巡拝 (ご生家)

■平和学習

七月十三日に平和学習を実施した。

当日は、ヒロシマを訪れ、広島平和記念公園内の慰霊碑を巡拝し、金光教広島平和集會に参加した。原爆供養塔の前で金光教の儀式で執り行われた原爆死没者慰霊祭に参拝し、祭典後の慰霊典樂大合奏にあわせて、学院生全員が真心を込めて玉串をお供えた。

その後、被爆体験講話を拝聴し、被爆体験証言者から、ご自身が体験された戦争の実際を聞かせていただき、学

院生に向けて「今の時代を生きる皆さん一人ひとりのところで、戦争のない平和な世界になるためにできることを考えていくことが大切だ」というメッセージも頂いた。

当時の様相を物語る資料や、被爆体験証言者の話に触れたことは、戦争や核兵器がもたらした惨状に思いを巡らせることとなり、戦争で亡くなられた方々への慰霊の祈りを捧げるとともに、「世界の平和と人類の助かり」に向けて、信仰者として一人ひとりができることを考えなければならぬと思いを新たにしようである。



平和学習 (広島平和記念公園)

■文化活動

学院では、教師としての基礎的素養を身につけ、深い人格形成に資することを願いとして、文化活動を設定しており、学院生は、典楽、茶道、書道のいずれかを選択し、毎週水曜日の午後に実施している。

典楽／八名

本年度は、箏一名、笙二名、龍笛四名、箏一名の者が選択しており、金光典楽会より金光あかり師・岡田信義師を講師に迎えて、文化活動の時間に稽古に励んでいる。初めて楽器に触れる者も多く、最初は音が出ず苦戦していたが、課業の合間を縫って一緒に



稽古を重ねることにより、段々と音が出るようになってきている。秋に学院広前で執り行われる霊大祭での奏楽の御用に向けて、神様、御霊様に真心がこもった音色がお供えできるように、ここからも稽古に励んでいきたい。

茶道／二名

茶道では、本年度から守屋琢智師を講師に迎えて、藪ノ内の流派を学んでいる。お茶のお点前の一つ一つを丁寧にご指導いただき、四季折々の美味しい茶菓手に癒されながら稽古に励んでいる。また、お茶のお点前に加え、掛け軸にかかわる作法も学び、お茶の歴史や和



の文化の奥深さを感じさせていたでいる。本年度の学院生は未経験ではじめに触れるお茶の道具に戸惑いながらも、自分で点てるお茶の味が変化していくのを実感し、美しい

書道／五名

い作法ができるよう一生懸命に取り組んでいる。これからも、作法はもちろん、おもてなしの心を育て、合同茶会に向けてさらに精進していきたい。

書道は、坂口善雄師にご指導いただいている。先生の書かれたお手本をもとに、一文字一文字、そして文字全体のバランスに気を配りながら、楽しく稽古に励んでいる。先生のご指導により、回を重ねるごとに上達していく様子を伺うことができ、大変ありがたい。今年も、生神金光大神大祭に合わせ、学院書華道展を開催させていただき、それぞれの思いを半切に表現し、展示する。また学院合同茶会では色紙に好きな字を書いて披露する予定である。今後とも先生のご指導を仰ぎ、稽古に勤しんでいきたいと願っている。



日程

(夏期在籍教会実習まで)

- | | |
|--|------------------------|
| <p>8月
6〜26 夏期在籍教会実習</p> <p>31〜8/5 少年少女全国大会御用奉仕</p> <p>27 第一信心レポート懇談</p> <p>23〜26 第一回定期考査</p> <p>22〜25 前教主金光平輝君教葬(密葬) 御用奉仕</p> <p>16 第一回部屋替え</p> <p>15 特科卒業証書授与式</p> <p>13 平和学習</p> <p>8 学院長寮内巡回</p> <p>5 聖蹟巡拝(本科・木綿崎山周辺)</p> <p>7月
1 第二回求道の日</p> <p>26 28 29 特科教話実習</p> <p>20 聖蹟巡拝(こ生家方面)</p> <p>18 聖蹟巡拝(特科・木綿崎山周辺)</p> <p>15 特科入学式</p> <p>14 特科入寮式</p> <p>6〜10 教団独立記念祭御用奉仕</p> <p>2 消防・避難訓練</p> <p>6月
1 第一回求道の日</p> <p>31 図書館見学</p> <p>29 文化活動開始(毎週水曜日)</p> <p>26 授業開始</p> <p>25 大掃除(畳上げ)</p> <p>24〜6/1 実践課題設定週間</p> <p>15〜23 信行輔導期間</p> <p>15 本科入寮式</p> <p>5月
14 本科入寮式</p> | <p>5月
14 本科入寮式</p> |
|--|------------------------|

特科生卒業

六月十五日に入學した特科生は、一カ月間に及ぶ学院修行を進め、九名が七月十五日に卒業した。学行では、教典ゼミ・

祭式・祭詞等を受講し、信行では、本科生の班に加わり、参拝、洒掃、炊事等を行じ、奉仕のお役にも当たった。それぞれ

が、教主金光様の御取次を頂き、御霊地のお徳の中で、修行に取り組み、教師としての基礎的素養を習得し、ここから御用に立たせていただく心構えができたようである。

また、先に入学をした本科生とともに修行し、互いに研鑽できたことは、大変ありがたいためである。ここから御用成就を祈念する。



特科・卒業証書授与式

学院での貴重な経験



大阪府・富田教会
吉田 賀津道

私は六月十四日に特科生として入寮させていただくにあたり、当初、どういこう修行をさせていただくかもあまり理解しておりませんでした。そのため、行きの新幹線の車内でひたすら心中祈願をしておりました。実際に入寮してからは、本科生の皆様のあたたかいご指導のおかげで、安穩にご修行に励むことができました。

私が学院でさせていただこうと思っておりましたのは、教主金光様のお出ましをお迎えさせていただくことでした。教祖様、ご立教の地であるご霊地のお徳の中で日々おかげを蒙らせていただけたのは誠にありがたいことでした。また、奉仕として、本部広前で先唱の御用をさせていただいたことは本当に貴重な経験となりました。荘厳な雰囲気の中、修行生の祈りのベクトルが一つになる瞬間も感じる事ができました。

修行をさせていただく期間が梅雨から夏に向かう時期ということもあり、お天気のご都合を願っておりましたが、すべて神様のお差し向けと受けとめる

ことができ、万事におかげを蒙り、無事に卒業することができました。ありがとうございました。

「何事もおかげです」



京都府・烏丸教会
高橋 さやか

私は学院入学に当たり、年代も出身地も違う方々との生活に不安を感じていましたが、六月十五日、一カ月先に入學された本科生の姿を見て、卒業するまでに私も同じようにできるのかとその不安な気持ちはさらに大きくなりました。しかし、本科生を含めた二十四人での生活は想像していたより楽しく過ごすことができました。

学院の修行生活は、朝の本部広前御祈念に始まり、授業や一日五回の洒掃



特科・調饌実習



特科・聖蹟巡拝 (木綿山)

があつて、学院広前夜御祈念で終わります。何もわからない私たち特科生に丁寧な教えて下さった本科生の方々の思いやりの心や、学院長先生が笑顔で話して下さった「何事もおかげです」というお言葉に支えられて、なんとか卒業を迎えられたのだと思います。

一カ月という短い期間に、月例祭の調饌や補助賛者、奉仕の御用、教話実習など貴重な体験もさせていただきました。これから在籍教会に戻っても、学院修行で得た事、そして、学院長先生のお言葉を忘れないよう、教会の御用に取り組み、神様と共に日々生活していけたらと願っています。

本科生の皆さんには健康に十分注意され、来年の教師任命式で再会できる事をお祈り致します。

学院生の声!

これからの生き方



京都府・四条教会
池川 真一
いけがわ しんいち

学院に入学させていただき約三カ月が経ちました。本科生十五名、特科生九名の計二十四名が、先生方の手厚い指導の下、充実した修行生活をこころで送らせていただきました。

学院では、毎日の本部広前参拝、授業や課業、そして同期生との共同生活すべてが信心の稽古の場であります。時には、これまでの自分を振り返ったり、これからの生き方を考えることもあり、私はその時間を大切にしています。

私は、二十五年間、京都で教員をしておりました。夢でもあった高校野球の監督となり、子ども達とグラウンドに立てる幸せな時間を過ごしてきました。自分の夢を神様に叶えていただき選手時代も含めると三十八年間も大好きな野球と向き合いながら幸せな人生を送ってきました。これからの人生は、

夢を叶えて下さった神様、両親への感謝、御礼として、孤独や病、困難を抱える方々を支える生き方ができるような修行に精進してまいりたいと考えております。

ここからも、神様をはじめ様々な方の祈りや願いの中で生かされている事を理解し、神様と向き合える生き方ができるように学院生活を楽しみながら修行させていただきたいと願っております。

見えない何かに支えられて



大阪府・羽曳野教会
渡辺 陽平
わたなべ ちやうへい

学院に入学させていただき、約三カ月が経ちました。三カ月間に私に、いや私達学院生達に起きた大きな変化は「見えない何か」を感じる様になった事です。

それは、勿論神様のおはたらきだともいえませんが、今の私にとって一番大きな存在は、霊様です。(最初は幽霊と言っていたのですが、同期生が霊様だよと教えてくれました)

「誰もいないのに、階段を登る音がする」といった霊様を感じたという話を聞いて、最初は木造で古い建物だから

そんな音もするのではと思っていました。ですが、私も身近に霊様を感じるようになってきました。特に、皆が楽しくしている場面で霊様も一緒におられるのではと感じることが多くあります。最近思うのは、学院のことをよく知っている、つまり、学院修行の経験がある先輩教師の霊様が一緒に修行をしてくださっているのではないかと、そしてその中には、私にとってとても身近な方々の霊様も含まれているのではないかと感じています。

ここからもそうした霊様を含めた皆様方の支えを頂いて、同期生と楽しく学院修行に取り組み、神様に心を向け、神様のおはたらきをさらに感じさせていたきたいと思っています。



大掃除 (畳上げ)



消防・避難訓練

